

福岡県西方沖地震で被災した玄界島の復興に関するアンケート調査

長崎大学工学部 学生会員○下田 弘二

長崎大学工学部 フェロー 高橋 和雄

長崎大学工学部 正会員 中村 聖三

1. まえがき

平成 17 年 3 月 20 日に発生した福岡県西方沖地震により、震源に最も近かった玄界島では斜面地の住宅と宅地が甚大な被害を受けた。玄界島の住民は福岡市内と玄界島内の応急仮設住宅に分散して長期避難生活を送っている。平成 18 年 1 月に「玄界島復興対策委員会」が策定した、島の復興計画をもとに、残存家屋の解体が行われ、斜面地および宅地の整備、公営住宅の建設、港湾の復旧等、島の復興が本格的に動き出している。そこで、本研究では、復興事業が進み、避難生活の解消が目前に迫った玄界島住民を対象に復興と現在の生活等のアンケート調査を行い、平成 17 年 7 月と平成 18 年 1 月に実施したアンケート結果¹⁾、²⁾と比較するものである。

2. アンケートの実施方法

平成 18 年 12 月に玄界島の応急仮設住宅、西区博多漁港かもめ広場、玄界島市営住宅および玄界島教員住宅を対象としてアンケート調査を行った。アンケート調査票の配布・回収は戸別訪問し、原則として手渡しで配布・回収を行った。不在の世帯には一部郵送を依頼した。アンケート調査表は 157 部を配布し、94 部回収した(回収率 59.9%)。

3. 主な分析結果

3.1 復興計画の評価 復興計画の策定にあたり「玄界島の復興計画をどう評価しますか」と聞いたところ、**図-1**のように、「大いに満足できる」7.4%、「ほぼ満足できる」43.6%、「やや不満である」37.2%となった。平成 18 年 1 月の調査と比較すると、「かなり不満である」および「無回答」が減少し、評価はよくなっている。復興工事が進んで、住宅の建設等が具体化したためと考えられる。また、「玄界島の復興のスピードはどうでしたか」と聞いたところ、**図-2**のように、「早かった」が多い。「復興に当たって行政の対応はどうでしたか」と聞いたところ、**図-3**のように、「早かった」が多い。この結果から復興のスピード、行政の対応の早さには住民は満足していると考えられる。

3.2 住宅の確保 「暮らそうと思っている住宅の種類と場所はどこですか」と聞いたところ、**表-1**の結果を得た。この結果は、平成 18 年 1 月に行ったアンケート調査²⁾とほぼ同じ結果となった。しかし、平成 17 年 7 月に行ったアンケート調査¹⁾の結果と比較すると一戸建て住宅は半減し、公営住宅が倍増している。「一戸建てがよいが資金がない」といった意見もあり、住宅再建に向けて資金面や宅地の確保での課題があったと考えられる。住宅の場所は以前と同様に「島内」が多い。

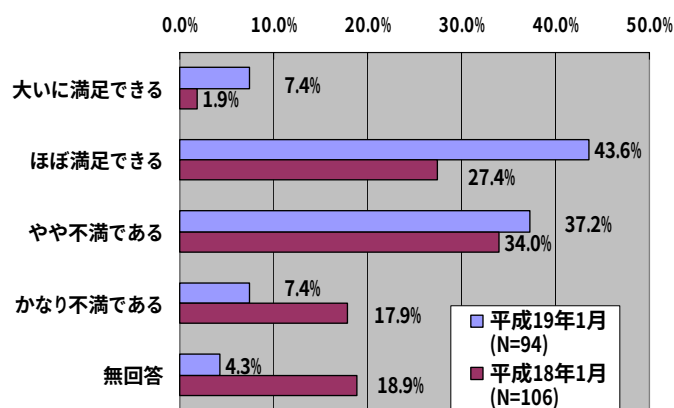


図-1 復興計画の評価

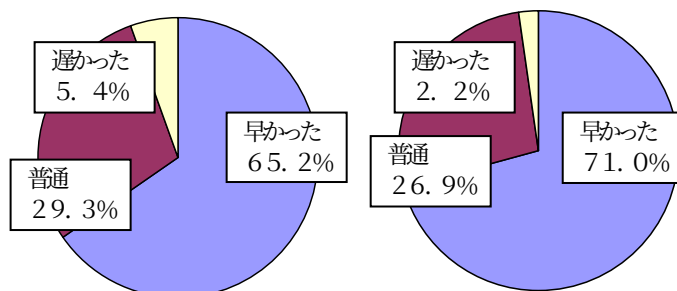


図-2 復興のスピード (N=92)

図-3 行政の対応の早さ (N=93)

表-1 希望する住宅の種類

種 類	平成19年1月 (N=91)		平成18年1月 (N=82)		平成17年7月 (N=147)	
	人	%	人	%	人	%
一戸建て住宅	27	28.7	22	26.8	85	57.8
公営住宅	59	62.8	46	56.1	42	28.6
その他	8	8.5	14	10.1	41	27.9

(複数回答)

また、「思っている住宅の種類と場所は最初から希望通りでしたか」と聞いたところ、**図-4**に示すように、「はい」が40.5%、「いいえ」が59.5%と、半数以上が希望通りにいかなかったという結果だった。これは、当初希望した一戸建て住宅が確保できなかったことによるものと考えられる。また、「応急仮設住宅からは新しい住宅にいつ頃移る予定ですか」と聞いたところ、**表-2**のようになった。「見当がつかない」が32.6%と、およそ3分の1の世帯がまだ応急仮設住宅から新たな住宅へ移る目途がたっていない。

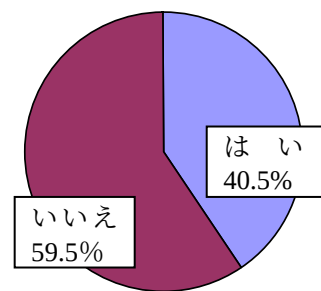


図-4 住宅は希望通りだったか (N=79)

3.3 斜面地の整備効果 「斜面地の整備によりどのようにになると判断されますか」と聞いたところ、**図-5**の結果を得た。地震・火災などに対する安全性、救急活動や交通環境は「よくなる」と考えられているが、近隣との関係は「よくなる」とする回答は少ない。

3.4 玄界島の将来 「今から3年後の玄界島は、地震前と比較して、どのようになっていると思いますか」と聞いたところ、**図-6**の結果を得た。人口は80.6%が「少なくなる」と回答した。また「島内の付き合い」についても「少なくなる」と34.8%が回答した。回答の中には「若年層が活動できる機会や施設の充実」といった意見もあり、住宅再建・斜面地の整備の復興だけではなく、漁業の活性化、高齢者・少子化

表-2 新しい住宅に移る時期 (N=92)

時 期	人	%
平成19年1月～12月	29	31.5
平成20年1月～12月	27	29.4
平成21年以降	2	2.2
その他	4	4.3
見当がつかない	30	32.6

対策等の振興、福祉対策、コミュニティの回復等が必要なことを示している。一方では、島外との交流は「多くなる」との期待もあり、具体策を検討することが望まれる。

4. まとめ

玄界島の復興のスピード、行政の対応の早さには住民も満足しており、復興計画の満足度は以前よりも高くなっている。しかし、応急仮設住宅解消後の新たな住宅については必ずしも希望通りではなかったと考えられる。斜面の整備は高く評価されているが、島内のコミュニティの回復や人口減少対策が必要なことを示している。

謝辞

アンケート調査を行うにあたり、かもめ広場と玄界島の応急仮設住宅の居住者、玄界島内の市営住宅および教員住宅の居住者に協力を得たことを付記する。

【参考文献】

- 1) 高橋和雄、河野祐次、杉山豊隆：福岡県西方沖地震における災害対応と玄界島住民の行動に関する調査、長崎大学工学部社会開発工学科、全78頁（2006.4）
- 2) 高橋和雄、杉山豊隆、中村聖三：福岡県西方沖地震で被災した玄界島の復興に関するアンケート調査、第25回日本自然災害学会学術講演会講演概要集、pp.171-172、桐生市（2006.11）

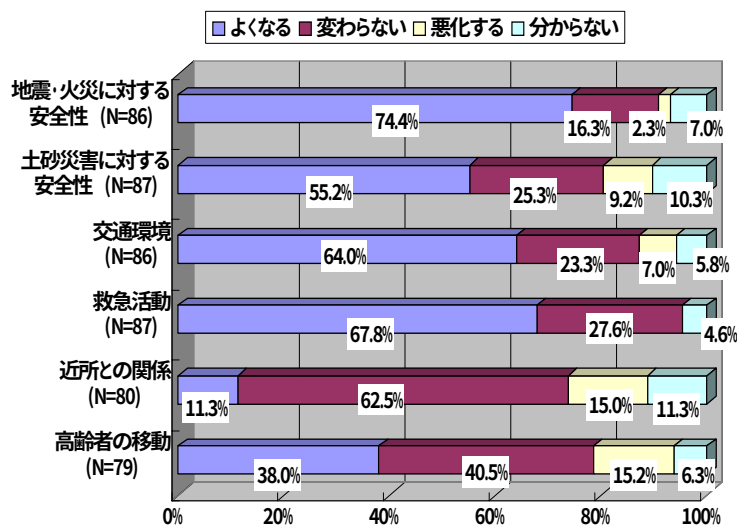


図-5 斜面地の整備による変化

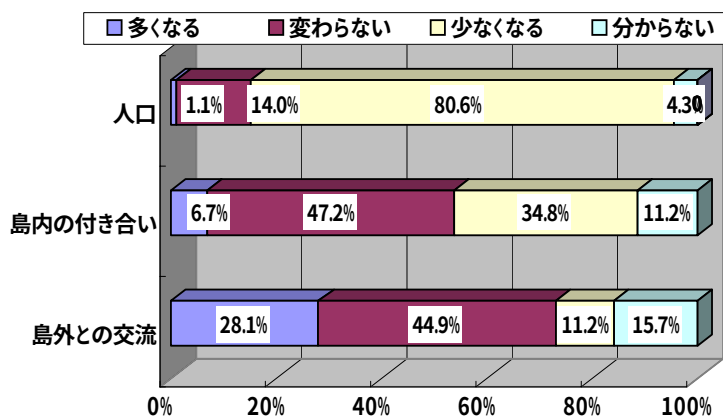


図-6 3年後の玄界島